

平成28年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携GP
(附属学校園連携GP) 活動成果報告書

取組名称 (全角20字以内)	育ちをつなぐ幼小接続プログラムの開発		
	副題(サブタイトル)		
取組学校等	附属幼稚園		
連携学校・学類	附属小学校	取組期間	平成28年4月～平成32年3月 (4年0ヶ月)
	学校教育学類		
	教職大学院		
ふりがな	くさば ゆうすけ	所属校名	金沢大学人間社会学域学校教育学
実施担当責任者	草場 勇介	及び職名	類附属幼稚園 教諭
電話番号	076-226-2171		
e-mailアドレス	ysk938@staff.kanazawa-u.ac.jp		

1. 取組の活動内容と成果

[園研究の幼小連携における活用]

〈 取り組み 〉

- ・学校教育全体にかかるアクティブ・ラーニングという視点から、幼児期のアクティブ・ラーニングを促す環境の構成及び教師の援助は何が有効であるか明らかにした

〈 成果 〉

- ・協力して取り組まざるを得ない課題が生まれるような環境構成を行い、教師が幼児同士をつなぐ援助を行っていくことで、幼児が主体的・協同的に課題の発見・解決に向けて取り組むことができるということが明らかとなった。幼小交流活動及び幼小接続カリキュラムを考えていく際にも、上記のような環境構成及び教師の援助を行っていくことが有効なのではないかと考えるに至った

[園研究の幼小連携における活用]

〈 取り組み 〉

- ・幼稚園ほし組(年長児クラス)と、小学校1の2が計25回の交流活動を行った。主な内容としては、ペットボトルや発泡スチロールを使った舟づくり、秋の自然物を使ったお店づくり、新一年生を迎える会を行った

〈 成果 〉

- ・例年以上の交流活動を行ったことで実践事例を積み重ねる事ができた

- ・交流活動にかかわった小学校教員の教育観の変容が見られ、幼児教育の理解が深まると共に、生活科の授業づくりに活かすことができた
- ・年長児は1年生への親しみや憧れをもち、小学校生活に触れることで、小学校入学に期待感をもつ幼児が増えた
- ・1年生は相手意識を高めながら活動し、年長児の成長を通して自分自身の成長を振り返る姿や、年長児に刺激を受けお互いに高め合う姿が多く見られた

[幼小接続カリキュラムの先進的事例の調査と研修]

〈 取り組み 〉

- ・文科省研究開発学校指定校 広島大学附属三原学校園の幼小中一貫教育の研究発表会への参加
- ・京都品川区立日野第一小学校及び第一日野すこやか園の参観及び情報収集
- ・東京都杉並区及び港区、埼玉県草加市、大阪府八尾市、大分県教育委員会、姫路市教育委員会を始めとする接続期カリキュラム先進的事例の資料検討

〈 成果 〉

- ・今までの交流活動の履歴を活かしながら、一年を通して取り組んでいくことができる交流プログラムを作成し、年間の交流活動を積み重ねながら小学校教諭と幼稚園教諭の相互理解を図り、接続期のカリキュラムの在り方を話し合っていくべきとの考えに至った

[園内研究会・校内研究会での職員間の交流]

〈 取り組み 〉

- ・11月19日に幼稚園と小学校で公開保育及び教育研究発表会を同日開催し、幼小連携分科会を設け、教職大学院の松本健一先生、石川県師範塾の山下美奈子先生に助言をお願いし、当日に向かうまでの指導をしていただいた。発表会当日は、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校という異なる立場の教員が集まり、様々な立場から活発な議論が行われた。

〈 成果 〉

- ・幼小の教員が相互の研究活動や教育目標についての理解を深めることができた

2. 平成28年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価（いずれかに○）	評価の理由
a. 達成できた <input checked="" type="radio"/> b. おおむね達成できた c. あまり達成できなかった d. ほとんど達成できなかった	実施計画通りに取り組みを実施することができ、得られた成果も期待通りであったため

3. 今後の目標・展望

今年度の交流活動は、ほし組と1の2という1クラスずつの交流活動となったため、他のクラスは同じ教育内容の経験をする事ができず、つき組に関しては小学校や1年生に対する不安を感じている幼児の割合がほし組より多かった。同じ教育内容を体験することができるよう、年長組と1年生という学年単位の交流活動について模索していくことが課題として挙げられる。

来年度は、小学校1年生3クラスと幼稚園2クラスが学年同士での一年間を通じた交流を計画している。その際、同じ相手と交流を積み重ねることができるよう、幼稚園2クラスを3グループに分け、3クラスと3グループが交流活動を行うようにする。年間の交流の中で、それぞれの活動に対する活動案の検討を積み重ねていく中で、幼小の教員のお互いの教育の理解や、接続期のカリキュラムについての意見交換を行い、「育ちをつなぐ幼小接続プログラム」の試案を作成する。「育ちをつなぐ幼小接続プログラム」の内容は、1年を通じた交流活動と小学校1年生4～5月の接続期カリキュラムを予定している。